

なから い どう すい 半井 桃水

* 万延元年12月2日 対馬国府中(現対馬市厳原町) 生まれ

* 大正15年11月1日 没 (65歳)

○ 略歴

- 明治5年 朝鮮に渡り給仕として働く
(13歳)
- 明治8年 上京し、英語学塾共学舎に学ぶ 「東京日日新聞」、「読売新聞」等に投書寄稿し、次第に名が出るようになる
(16歳)
- 明治10年 共学舎を出て三菱に入社するが、すぐに退職
(18歳)
- 明治11年 京都の「西京新聞」に入社
(19歳)
- 明治13年 大阪の「魁新聞」に移るが翌年廃刊し失職する
(21歳)
- 明治14年 「朝日新聞」の通信員として朝鮮に渡る(日本で最初の海外特派員)
(22歳) 翌年、朝鮮紹介をかねた翻訳小説の鶏林情話「春香伝」の連載開始
- 明治21年 帰国し、「東京朝日」に入社
(29歳) この頃より小説家としての本格的活動が活発になる
- 明治24年 「胡沙吹く風」の連載開始
(32歳) 樋口一葉が門下に加わるが、翌年一葉は門下を離れる
- 明治37年 日露戦争が勃発し、「朝日新聞」より従軍記者として第三軍に従軍
(45歳)
- 大正8年 「朝日新聞」退社し、以降客員として小説を発表
(60歳)

○ その他の代表作

「天狗廻状」(明治41)、「義民加助」(大正5)